

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800315		
法人名	特定非営利活動法人 宅老所 あじさい		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	山口県下関市豊浦町大字黒井1803		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町受理日	平成24年5月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市古敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人の意向に沿いながら家庭的な雰囲気の中で自由に安心して生活していただける様心がけています。又、年々重度化が進む中、研修会や月に1度の勉強会等で個々に合った支援方法や技術の向上に努め、本人や家族に安心していただける様全職員で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

消防署の協力を得て地域住民も参加した避難訓練を実施しておられるほか、6カ月に1回はスプリンクラーの操作方法や通報訓練を実施され、非常時には5分以内で避難できることをめざして、毎月実践的な避難訓練を利用者と一緒に実施して確実な避難誘導ができるよう取り組んでおられます。帰宅願望のある利用者に職員が付き添って一緒に歩かれたり、本人や家族の思いや意向を踏まえ協力医や看護師、職員等関係者が連携されて、ターミナルケアに取り組まれるなど、利用者本人に寄り添ったケアをしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員同士が話し合った理念を作成、玄関や食堂に掲示し、毎日の朝礼時に唱和。意識して仕事を行っている。	地域生活の継続と、事業所と地域の関係性を重視した事業所独自の理念を作り、利用者の立場に立った具体的ケアについて職員間で話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し交流している。散歩などで顔を合わせれば日常的に挨拶している。	自治会に加入し、ホタル祭りや文化祭、敬老会等の地域行事や寺の行事に参加している。事業所の夏祭りには地域の人の参加があり、近隣の住民からの野菜の差し入れや散歩時の挨拶など日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に積極的に参加したり、消防訓練に参加してもらい、地域の人々に理解してもらえる様に努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に自己評価を記入してもらい、外部評価について考える機会を持っている。 評価後は職員会議で話し合いの場を持っている。	全職員に自己評価表を配布し記入してもらい管理者がまとめている。外部評価結果については、職員会議で話し合い、目標達成に向けた取り組みについて具体的に検討し改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催し、最近は行事と一緒にに行い直に利用者の様子を見てもらい意見交換を行っている。	年6回、利用者、家族、自治会長、市職員等が参加し開催している。現況報告、行事報告、外部評価結果報告、避難訓練などについて話し合っている。自治会長からの提案で自治会と一緒に避難訓練の実施について検討するなど意見を活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営や研修について、介護福祉課や地域包括支援センターに相談、連携をとっている。 生活保護受給者の方について市の担当者とも連携をとっている。	運営推進会議のほか、市担当課や地域包括支援センターと、出向いたり電話連絡で相談や情報交換するなど協力関係を築くよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や現場で拘束について理解し、意識して仕事に取り組んでいる。 日中は施錠せず自由に動いてもらっている。	マニュアルがあり、年1～2回法人の研修を受け、職員は正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。昼間は玄関の施錠はせず、自宅に帰ると出かける利用者には、職員が付き添い見守りをしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を繰り返し行うことで職員の意識付けを行い防止に努めている。 又、目に見えない精神面への虐待に注意し職員同士無意識の行為がないように注意している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で学ぶ機会を持っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、又、必要に応じて利用者家族と話し合い、十分な説明を行い理解と納得を得られるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情意見箱の設置、面会時や電話などで意見を聞くように努めている。 また、第三者委員会、外部機関を明示し苦情処理手続きも明確に定めている。	運営推進会議や夏祭り等の行事参加時や面会時、電話等で意見や要望を聞くよう努めている。相談・苦情受付担当者や第三者委員、外部機関について明示し、苦情処理手続きを周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役職会議や職員会議で必要に応じて意見を反映させている。	月1回職員会議で意見や提案を聞く機会を設けており、日常的にも職員は代表者や管理者に相談している。浴室の滑り止めや洗面所の扉の改善など意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1日の目標を明確にし、業務に対して適切な評価をするように努めている。 向上心をもって働ける様、社内外への研修の参加、資格取得への奨励に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○JT、社内外の研修、個々の場面で必要と思われる助言、指導を行っている。 又、職員の意見を取り入れた勉強会を月1回行い、実践できるように取り組んでいる。	外部研修は職員の経験や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供しており、受講後は復命し職員間で共有している。新人研修や救急法の研修は法人の研修として取り組み、事業所内では職員の意見を取り入れた年間計画を立てて月1回勉強会をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・GH連絡協会や事業所連携就職支援事業の研修会などに参加して交流を図っている。 又、相互訪問等を行い情報交換等でサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを傾聴し、不安に思っている事等を家族とも話し合い、その事を職員間で情報共有し信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族面会時コミュニケーションを図り要望や意見を聞き、必要に応じて連絡を取り関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話をよく聞き、又、本人の様子をよく観察して必要なサービスを提供し対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事はしてもらい、職員は傍で見守る。出来ない事は一緒に行い、終わった後は達成感を得られる様な声掛けをしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて連絡を取ったり面会時に話し合っている。 面会時、家族がゆっくりと過ごせる様配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の自由・外出の自由を実施し、本人が自分の行きたい所へ自由に行ける様支援している。	友人、知人の面会、馴染みのパン屋等での買い物、家族の協力を得て親族宅の訪問、結婚式、法事への参加、行きつけの美容院の利用、居室に昔の写真や家族の写真を貼るなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じて席替えを行ったり利用者同士が互いの部屋を自由に行き来して交流できるようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も気軽に相談などに応じられる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から希望や意向を聞き、職員会議などで話し合い、本人本位に暮らせるよう検討している。	センター方式のシートを活用し、家族からの情報や日頃の言動などから一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや本人・家族から知り得た情報を共有し、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定や毎日の介護記録をもとに朝礼や職員会議などで各人の状態把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケア会議を行い、本人・家族にも要望を聞いている。 毎日のサービス実施チェックも行い必要に応じてケア会議も行っている。	毎日、ケアサービスチェック表でモニタリングし、月1回ケアカンファレンスを行っており、本人や家族の要望や意見、看護師、職員の意見やアイデアを参考にして介護計画を作成している。6カ月毎に見直しをし、状況に変化があった場合は現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は就業前にバイタルチェック・食事摂取量・介護記録・生活記録・連絡ノートに目を通し、情報の把握に努め、実践している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から意向を聞き、又、会議などで情報を共有し、全職員が把握できるようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察に情報を提供し、理解を求めたり、消防の方にも避難訓練を通じて協力をお願いしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人・家族の希望を聞いている。 又、受診の介助・通院の介助を必要に応じて行っている。 緊急時、必要に応じて診察が受けられる様に支援している。	協力医療機関のほか、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診の支援をしている。家族の協力を得ての受診や通院介助、往診があるなど医療機関と関係を築きながら、家族と受診情報を共有して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼・連絡ノート・健康表などで情報を共有し、日常的に看護師に報告、相談しながら支援を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の付き添い、入院した際の面会時、家族や病院関係者と情報交換と相談を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時と状態に応じて家族へ連絡、説明している。 職員には朝礼・職員会議・連絡ノートにより情報を共有。支援方法を話し合っている。	入所時に重度化や終末期の対応について説明している。実際に重度化した場合には、家族、職員で話し合い、方針を共有して、協力医や事業所の看護師、職員、家族と連携して、ターミナルケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	月1回の勉強会を行って実技も取り入れている。 事故が起こった場合、緊急の職員会議を行い、対策と防止について話し合っている。	ヒヤリハットや事故が発生した場合は、その場で職員が検討し、職員会議で対応策を検討して、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。月1回、心肺蘇生法、止血法、転倒予防、骨折の応急手当、AEDの使用法などの訓練を取り入れた勉強会を行い、実践力が身につくよう努めている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の火災避難訓練の実施、職員会議・勉強会で災害について学んでいる。 年1回大がかりな避難訓練には地域の人の協力を得ている。	年1回、消防署の協力を得て、地域住民も参加して夜間想定消防、避難訓練を行っている。6カ月に1回スプリンクラーの操作方法や通報訓練を行うとともに、月1回利用者と共に避難方法を工夫した訓練を行っている。緊急連絡網に自治会長も入っており、運営推進会議で自治会と一緒に避難訓練の実施も検討するなど、地域との協力体制を築くよう話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っていると思うが時には相手の機嫌を損ねてしまう事がある。その原因を知ろうとする努力はしている。	一人ひとりの人格やプライバシーを尊重し、入浴時や排泄時等にはさりげない言葉かけや対応をしている。プライバシー確保について日常的に確認し合うことに努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後の衣服を一緒に選んだり、飲み物を選んでもらったりと本人の希望を聞くようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースや意思決定を大事にしているが、時には職員サイドの都合になる事もある。 その時はよく説明して納得してもらうようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面・整容・洋服選びなど出来る事はしてもらっている。 又、服が汚れたらその都度着替えてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を取り入れたり、1人1人の状態に合わせて食事形態を変えたりしている。 テーブルには必ず1名以上の職員が付き一緒に食事をして会話を交わしながら楽しく食事が出来るように支援している。	副菜は配食を利用しており、利用者は茶碗洗いや片づけなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓を囲み会話をしながら食事を楽しめるように支援している。 月1回の行事食、おやつ作り、敬老会や寺の行事などでの外食、運動会の弁当などで変化を楽しんでいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量の毎日の記録を通じて、必要に応じて本人の好みの飲み物や高カロリー食を用意して1人1人の状態や習慣に応じた支援が出来るように努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後各人に応じて口腔道具を変えてケアしている。 最後は職員が口腔内を確認し、自歯の方には職員が仕上げを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表により排泄間隔の把握に努めトイレ誘導している。 又、本人の残存機能を使いトイレやポータブルトイレでの排泄が出来るように支援している。	排泄表に記録して排泄状況を把握し、時間を見図って声かけをするなどトイレでの排泄ができるよう支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握(記録) 出来る範囲の運動 腹部マッサージ 勉強会で排便(便秘)についての勉強		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日実施。 1日の中で(朝から夕方)本人の希望を聞いて入浴している。 又、体調によっては清拭・ドライシャンプー・足浴で対応している。	毎日、11時から12時と14時から17時の間に利用者の希望にそってゆっくり入浴できるよう支援している。椅子や手すり、滑り止めなどの安全対策をして、柚子湯等工夫して入浴を楽しめる支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的な寝具の洗濯、利用者の睡眠パターンの把握。室温の調整。冬場は湯たんぽを使用して安眠できるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員会議・朝礼・連絡ノートにより情報の共有、服薬についての理解に努めている。 利用者には名前を確認後、手渡しし飲みこみを確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や家事手伝い、散歩等各人に応じて行っている。 近くの商店に歩いて買い物に行ったり、車でスーパーへ行って好みの物を買っている。	季節の行事(節分、ひな祭り、花見、ミカン狩り)、誕生会、お寺の行事やお化粧、カルタ取り、風船バレーなどのレクリエーション、ボランティア楽団の演奏などの楽しみ事や、洗濯物たたみ、おやつ作り、庭の花植え、新聞紙畳など活躍できる場面を作り、張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は開錠しており、自由に戸外に出られる様にしている。 又、季節の行事として外出する機会を設けている。 家族との外出時には排泄などがうまくいくように支援している。	利用者のその日の状態や希望にそって、散歩や買い物、自宅に行くなど日常的に外出している。初詣、花見(コスモス、桜など)、ミカン狩り、寺参り、地域の催しの歌謡ショー、外食等に家族と一緒に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くの商店やスーパーでの買い物への付き添いを行い、本人が上手く買い物出来るように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話がかかってきた時は居室にいてゆっくり話が出来るようにしている。 本人からの要望があればその都度家族に連絡を取ったり、時には電話をかけてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓、毎食後の拭き掃除、室温の調整、換気を行っている。 季節により飾り物等を変えている。	台所の床暖房、浴室、トイレなど民家を改造した建物で、玄関、廊下、仏壇の間など自宅での生活の雰囲気をそのままに持っている。季節の花や飾り物を飾り、穏やかに居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は自由だが定位置を決めている方もいて、気の合った人同士が隣席になるよう配慮している。 又、ソファも置いてあり、それぞれ思い思いの場所で過ごしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持参の写真を飾ったり、持ち込みの家具や小物等を置いて使用している。 又、苑での生活が分かるよう各居室に写真を飾り毎月張り替えている。	使い慣れたタンス、テレビ、時計、ぬいぐるみ、陶芸作品などを持ち込み、家族の写真を貼って、自宅の一室のように居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビング、トイレ、風呂場に手摺の設置。玄関にはセンサーを取り付け、安全とそこの人に合った自立生活が出来るように努めている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム あじさい

作成日：平成 24年 5月 18日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	・運営推進会議をもう少し拡大させて、家族や地域の方たちに現状を知ってもらい、様々な意見を反映させる機会を持つ。	・運営状況や活動を家族や地域の方達に理解してもらい、利用者の方達が地域の一員として安心して暮らしていける様、支援していきます。	・地域の他分野の方達に出席して頂く。 ・議事録には要約しないでそのままを記録する。 ・議事録を全家族に送付する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。